

法人運営分野

理事会・評議員会の運営により、安定して地域福祉を推進する体制を整えることができました。会員の拡充と会費の確保は目標に達しませんでした。地域福祉活動を通して住民と社協の関係が深まっていることを実感しています。

1. 理事会評議員
会の開催・監査の
実施

(1)理事会

4月4日(火)	① 会長の選任について ② 副会長の選任について ③ 臨時職員等就業規則の改正について
5月31日(水)	① 平成28年度事業報告について ② 平成28年度一般会計決算について ③ 平成29年度一般会計収支補正予算(案)について ④ 社会福祉充実計画について ⑤ 評議員選任・解任委員の選出について ⑥ 評議員選任候補者の推薦について ⑦ 評議員会の日程と招集理由について
6月16日(金)	① 会長の選任について ② 副会長の選任について ③ 苦情解決に関する規程の改正について ④ 苦情解決第三者委員の選任について
10月31日(火)	① 東員町による監査の報告 ② 平成29年度事業経過報告(9月末現在) ③ 安全衛生管理に関する規程の制定について ④ 臨時職員等就業規則の改正について
12月21日(木)	① 経理規程の改正について ② 給与規程の改正について ③ 平成29年度一般会計収支補正予算(案)について ④ 評議員会の日程と招集理由について
3月22日(水)	① 経理規程の改正について ② 臨時職員等就業規則の改正について ③ 平成29年度一般会計収支補正予算(案)について ④ 平成30年度事業計画(案)について ⑤ 平成30年度一般会計収支予算(案)について ⑥ 平成30年度予算中のサービス区分内流用と予備費の充用について ⑦ 評議員選任候補者の推薦について ⑧ 評議員会の日程と招集理由について

(2)理事研修

理事が運営判断をするための材料として、以下の研修を行った。

① 開催日 10月15日(日)

会場 : 四日市プラトンホテル

テーマ : 『コミュニティソーシャルワークの実践から地域包括ケアの深化・

推進の仕方を探る』

講師：厚生労働省 老健局 吉田 一生 氏
 日本福祉大学 社会福祉学部教授 原田正樹 氏
 参加者：4名

(3)評議員会

自治会長会副会長、社会福祉事業を運営する団体の役職員、ボランティア活動を行う団体の代表者を含め、14人の評議員が就任した。
 [任期 平成29年4月1日～平成33年6月]

6月15日(木)	① 平成28年度事業報告について ② 平成28年度一般会計決算について ③ 平成29年度一般会計収支補正予算(案)について ④ 社会福祉充実計画について ⑤ 理事及び監事の選任について ⑥ 役員に対する報酬及び費用弁償に関する規程の改正について ⑦ 評議員に対する報酬及び費用弁償に関する規程の改正について
12月28日(木)	① 平成29年度一般会計収支補正予算(案)について
3月29日(木)	① 理事の選任について ② 平成29年度一般会計収支補正予算(案)について ③ 平成30年度事業計画(案)について ④ 平成30年度一般会計収支予算(案)について ⑤ 平成30年度予算中のサービス区分内流用と予備費の充用について

(4)監査

- ① 5月24日(水) 平成28年度事業報告・一般会計収支決算の監査
- ② 12月8日(金) 平成29年度前期事業・一般会計収支決算の監査

2. 戸別会員特別会員の募集

ふくしのわ春号に記載し全町民の方に呼び掛けると共に、自治会長会で協力をお願いした。また、地域福祉座談会開催地区やシニアカレッジで、社協の役割と実績を説明した。

- ① 戸別会費 5月
 2,795,674円(前年度比98.1%)
 5,591世帯(世帯の加入率59.4%)
 (自治会加入世帯を対象に算出した加入率68.9%)
- ② 特別会費 7～8月
 25団体を訪問し、特別会員への加入を呼びかけた。
 749,000円(前年度比93.7%)
 特別会員へお礼状と共に福祉のつどいの案内を送付し、会費によって地域福祉の啓発事業をしていることを伝えた。

3. 苦情要望の受付

- (1)苦情の受付
 - * 社協会費・共同募金関係 3件
 - * カフェ運営 1件

	<ul style="list-style-type: none"> * 障害福祉サービスにかかる相談支援 1件 * ふれあいセンター駐車場 1件 * 通所介護 1件 <p>(2)苦情解決第三者委員の委嘱（平成29年7月1日～平成31年6月30日） 水谷勝利氏 橋本美千代氏</p> <p>(3)苦情解決第三者委員会議 7月7日（金） 第三者委員に対し社協役員、苦情解決責任者、苦情受付担当者が、昨年度に受け付けた苦情とその対応を報告した。</p>
<p>4. 事務局体制の充実</p>	<p>(1)運営会議 社協全体に関わる課題について協議し調整した。（月1回）</p> <p>(2)運営役席会議 現場責任者が現状と課題を報告し、意見交換した。（年4回）</p> <p>(3)連絡会議 毎週水曜日、各部署の担当者が直近の事業実施状況を共有した。</p> <p>(4)総務福祉係で「仕事の失敗を積極的に活用しよう」活動 職員全体研修で学んだハインリッヒの法則を活用し、業務過程で発生した「些細な失敗」を係員で共有して学ぶしくみをつくった。</p>
<p>5. 社協事業の適正化</p>	<p>(1)「事業評価票」によって全業務を事業評価票によって以下の視点で評価した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域福祉の向上を目指す事業であるか ②社会情勢の変化など時の経過に即した事業実施になっているか ③住民のニーズに適應しているか ④費用対効果を考慮した事業実施になっているか。 <p>※①②の施設事業の評価項目は以下通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自分たちの仕事が地域福祉につながっているか ② 制度改正や地域の実情に応じたサービス内容になっているか
<p>6. 職員のスキルアップ(職員研修)/役職員の倫理の向上</p>	<p>(1)全体研修</p> <p>① 講習 『メンタルヘルス 心を元気に仕事をするには』 開催日：5月17日(水) 講師：こころ元気研究所 鎌田敏氏 参加者：職員 35人</p> <p>② 講習 『私たちの仕事はサービス業なのか、ホスピタリティ産業なのか』 開催日：10月2日(月) 講師：有限会社 幸プランニング 長野ゆき子氏 参加者：職員 33人</p> <p>(2)人権研修</p> <p>① 開催日：6月24日(土) 講師：四日市大学 総合政策学部 教授 松井真理子氏 参加者：職員 28人</p> <p>(3)総務福祉係研修 6月8日(木)阪南市社会福祉協議会・阪南市東鳥取校区のまちなかサロン、</p>

	移動販売を学んだ。学んだ実践を地域福祉推進協議会で伝達した。
7. 寄付金の受付と管理	<p>ご寄付者名を『広報とういん』に掲載した。</p> <p>寄附金額 2,691,872円 件数 101件 (前年度比105.3%)</p> <p>寄付者名をホームページに掲載した。(毎月1回更新)</p>
8. 日本赤十字社社資増強運動事業	<p>日本赤十字社強化月間に町内で啓発した。</p> <p>① 啓発活動</p> <p>5月17日(水) 三岐鉄道北勢線 東員駅 穴太駅 三重交通城山バス停</p> <p>② 社費の募集</p> <p>5月 自治会長会で説明し募集</p> <p>平成29年度実績額 2,860,154円(前年度比99.3%)</p>
9. 安全衛生委員会	<p>10月31日開催の理事会で安全衛生管理に関する規程の制定を行った。</p> <p>規程に基づき衛生委員7名を選任し、11月から衛生委員会を実施した。</p> <p>インフルエンザ予防等の全体に関わる課題を月1回話し合った。</p>

地域福祉分野

社会福祉協議会の設置目的は、社会福祉法により「地域福祉の推進を図ること」と規定されています。「住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現」をめざす（「新・社会福祉協議会基本要項」）ため「住民参加による地域福祉の推進」（全社協HP）を東員町社会福祉協議会としては地域福祉座談会という手法で実践しています。平成29年度は4地区の自治会様が地域福祉の理念に賛同くださり、地域福祉座談会を開設されました。また、シニアカレッジやシニアクラブなどの活動支援を通して、多くの方により地域福祉を理解していただけるよう働きかけました。

10. 福祉のつどい	<p>みんなが集うことによって、楽しく地域で過ごすことができ、支援している方も元気に活躍することができることを活動発表や講演から学んだ。また、参加者どうしが経験や事例を話し合った。</p> <p>日 時 平成29年10月21日(土)13:30～16:00 会 場 東員町保健福祉センター ホール テーマ 『みんなが集う楽しく元気な地域づくり』 講 師 日本福祉大学 社会福祉学部教授 木全 和巳 氏 活動発表団体 “お茶しませんか”（笹尾東4丁目） “中上地区見守り会議”（中上）</p> <p>参加者 100名</p>																							
11. 「ふくしのわ」発行事業	<p>4月21日 7月7日 10月6日 1月19日に発行し、地域福祉座談会の取組など地域福祉活動の実例を多く紹介した。</p> <table border="1" data-bbox="411 1081 1401 1921"> <thead> <tr> <th>発行日</th> <th colspan="2">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4月21日</td> <td>表紙</td> <td>シニアカレッジ</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>役員紹介 社協会費・日赤社費 平成29年度事業計画・予算 シニアカレッジ募集 赤い羽根共同募金実績報告 地域福祉座談会の案内 在宅介護者のリフレッシュ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">7月7日</td> <td>表紙</td> <td>地域福祉座談会</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>東員町のカフェ特集 平成28年度事業報告・決算 特別会員募集 中学校勤労体験学習 地域福祉推進協議会 子育て支援情報 在宅介護者リフレッシュ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">10月6日</td> <td>表紙</td> <td>子育て支援ほっと</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>社協戸別会費と日赤社費の報告 地域福祉座談会 共同募金運動 カフェ特集 シニアカレッジ 地域ボランティア交流会 在宅介護リフレッシュ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1月19日</td> <td>表紙</td> <td>平成29年度福祉のつどい</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>特別会費の報告 地域福祉座談会 地域福祉推進協議会 共同募金活動 災害ボランティア活動 カフェ特集 シニアカレッジ 勤労体験学習 社会福祉大会 子育て支援ネット 在宅介護リフレッシュ</td> </tr> </tbody> </table>	発行日	内容		4月21日	表紙	シニアカレッジ	内容	役員紹介 社協会費・日赤社費 平成29年度事業計画・予算 シニアカレッジ募集 赤い羽根共同募金実績報告 地域福祉座談会の案内 在宅介護者のリフレッシュ	7月7日	表紙	地域福祉座談会	内容	東員町のカフェ特集 平成28年度事業報告・決算 特別会員募集 中学校勤労体験学習 地域福祉推進協議会 子育て支援情報 在宅介護者リフレッシュ	10月6日	表紙	子育て支援ほっと	内容	社協戸別会費と日赤社費の報告 地域福祉座談会 共同募金運動 カフェ特集 シニアカレッジ 地域ボランティア交流会 在宅介護リフレッシュ	1月19日	表紙	平成29年度福祉のつどい	内容	特別会費の報告 地域福祉座談会 地域福祉推進協議会 共同募金活動 災害ボランティア活動 カフェ特集 シニアカレッジ 勤労体験学習 社会福祉大会 子育て支援ネット 在宅介護リフレッシュ
発行日	内容																							
4月21日	表紙	シニアカレッジ																						
	内容	役員紹介 社協会費・日赤社費 平成29年度事業計画・予算 シニアカレッジ募集 赤い羽根共同募金実績報告 地域福祉座談会の案内 在宅介護者のリフレッシュ																						
7月7日	表紙	地域福祉座談会																						
	内容	東員町のカフェ特集 平成28年度事業報告・決算 特別会員募集 中学校勤労体験学習 地域福祉推進協議会 子育て支援情報 在宅介護者リフレッシュ																						
10月6日	表紙	子育て支援ほっと																						
	内容	社協戸別会費と日赤社費の報告 地域福祉座談会 共同募金運動 カフェ特集 シニアカレッジ 地域ボランティア交流会 在宅介護リフレッシュ																						
1月19日	表紙	平成29年度福祉のつどい																						
	内容	特別会費の報告 地域福祉座談会 地域福祉推進協議会 共同募金活動 災害ボランティア活動 カフェ特集 シニアカレッジ 勤労体験学習 社会福祉大会 子育て支援ネット 在宅介護リフレッシュ																						
12. ホームページ運営	<p>常に新しい情報を発信し、新着情報の枠を広げて、いつでも最新情報を把握できるようにした。</p> <p>* HPアクセス件数 1,952,531件（3月末現在） 前年度比203.1%</p>																							

Facebookアクセス件数 9,746件(3月末現在)

13. 民生委員児童
委員協議会との
協働

民生委員児童委員協議会の事務局として、定例会、役員会の事務を担った。
* 役員会(4/5. 6/7. 8/2. 9/6. 10/4. 12/6. 2/7. 3/8)
* 定例会(4/18. 6/20. 8/22. 9/19. 10/17. 12/19. 2/20. 3/15)
* ブロック別の活動、分野別活動を事務局として支援した。

14. 地域福祉座談
会

(1)地域福祉座談会の開催(13地区・全自治会の約52%で実施)

① 新規に開催した自治会・継続している座談会

平成25年度～	中上地区 笹尾東4丁目地区
平成26年度～	瀬古泉地区 八幡新田地区 筑紫地区
平成27年度～	笹尾東2丁目地区 大木地区 穴太地区
平成28年度～	笹尾西1丁目地区
平成29年度～	城山1丁目地区 城山2丁目地区 城山3丁目地区 鳥取地区

(2)実施状況

① 中上地区	4月25日(火)	運転ボランティアと出発・迎いの便を増やした。五和会のアンケート結果を確認した。
	5月30日(火)	社協と自治会長が“五和会の入会者を増やそう”案を提示した。
	6月27日(火)	五和会の各班長さんが参加し、五和会がさらに魅力的になるための工夫を話し合った。
	7月25日(火)	外出サポートは新しい車が追加され3台で運行。五和会について、集まる場所があると良いが、役員の負担が大きいという意見が出た。
	8月24日(木)	引き続き五和会がさらに魅力的になるための工夫を話し合い、今後は五和会の中で話し合うことになった。
	9月26日(火)	中上の暮らしの向上には“人”が大切であると話し合った。
	10月24日(火)	最初は乗り気じゃなかった方も活動していると楽しめるようになるようだという意見が出た。
	11月24日(金)	地域で集まって喋ることができるようベンチを置く提案が出た。
	12月21日(木)	外出サポート利用者にカフェのことを聞いたところ、すでに集う場はできているようだと言われた。

		1月23日(火)	集まっている場にベンチをおいたり風よけを作ったりして環境を整備する検討をした。
		2月22日(木)	地区内2カ所のベンチ設置とH30外出サポート活動の詳細を確認した。
		3月23日(金)	ベンチ設置後の報告と、ゴミ集積所の要望を確認し、今後話し合うことになった。
②	笹尾東4丁目	5月24日(水)	自治会加入の大切さ、ご近所の助け合いについて確認した。今年度から年に1回役員会で自治会の大切さを説明することになった。
		7月12日(水)	夏休みのラジオ体操の確認。敬老会の詳細を決定今年度の敬老会の見守りアンケートは班長が配布回収、また当日は各組から2人がお手伝いする。
		8月25日(金)	敬老会の実施方法について話し合った。新しい見守りシステムの提案があった。
		10月20日(金)	水道検針による見守りについて話し合った。
		11月20日(月)	水道検針による見守り活動の登録内容、実施方法を検討した。
③	瀬古泉地区	4月22日(土)	カフェについて、お菓子が無くても楽しめて参加者が増えるように、民話の読み聞かせの案が出た
		6月24日(土)	参加者を増やす方法を検討した。夏休みに笑寿会と子ども会合同でラジオ体操をする新しい企画を話し合った。
		8月26日(土)	ラジオ体操活動を振り返った。カフェに若い人に来てもらうため、回覧板の回し方を検討した。
		10月21日(土)	カフェへの若い世代の参加者増を検討した。
		12月16日(土)	1/21のカフェで子ども文庫の役員さんがバルーンアートを教えてくれることを決めた。周知はラインやチラシ。
		2月17日(土)	H30瀬古泉カフェの開催日や地域の方の活躍の場になることを確認した。
④	八幡新田地区	4月5日(水)	地域福祉座談会規約・個人情報のルールを決定。見守り活動の対象者を限定せず全住民にした。
		7月5日(水)	ガイドライン、個人情報ルールの内容を検討し、会の名称が八幡見守りネットワークに決定された支えあいを啓発するワッペン作成の案が出された
		10月4日(水)	参加者がシニアクラブから1名新たに加わった。日常で住民同士が見守る方法をとることを再確認した。
		2月6日(火)	新しくなった班長に班長会で自治会長が見守りを啓発するチラシを配布した。班長の見守りの意識を高める目的で3月の班長会で地域包括支援センターの職員から説明してもらうことにした。
⑤	地鳥	7月31日(月)	初回の座談会を開催した。

区取		
⑥ 丁目 尾東 区 2	5月19日(金)	災害時に地域の皆が無事避難できているかどうか分かる状態にすることを目標にした。 そのために、世帯調査をする。
	12月7日(木)	災害時に避難したことを示す目印を作成することになった。
⑦ 大木 地区	4月26日(水)	可燃ゴミ回収支援の希望者に聞き取った結果、粗大ゴミ運搬のニーズが判り、回収方法・対象者について話し合った。カフェ活動も提案された。
	6月6日(火)	粗大ゴミ運搬とカフェ活動の実施案を考えた。
	7月6日(木)	粗大ゴミ運搬の実施日が決まり内容等を確認した。
	9月21日(木)	10/22の粗大ゴミ運搬について最終確認。 10/26の大木カフェの詳細を決めた。
	10月26日(木)	カフェを月1回開催することを決めた。 11/19粗大ゴミ運搬の最終確認。
	12月21日(木)	大木カフェは福祉委員長が指揮することになった粗大ゴミ運搬について次回以降話し合う。
	2月15日(木)	大木カフェの目的は居場所づくりであることを再確認した。粗大ゴミ運搬を10月実施することを決定。
⑧ 穴太 地区	4月8日(土)	65歳以上ひとり暮らし高齢者の情報を共有した。DVDを見ながらコーヒーを飲んだり、お喋りする会を10月に開催することが決まった。
	6月10日(土)	穴太喫茶店について、対象者、世話人、広報、準備物など具体的なことを決めた。
	9月9日(土)	11月22日(水)の13時半から穴太喫茶店を開催することが決まった。映写できるか確認した。
	11月11日(土)	穴太シニアお茶会で準備するものを決めた。DVDを映写して確認した。
	2月3日(土)	11月22日に行われた穴太シニアお茶会を振り返った。夏頃にもう一度開催するよう検討する。
⑨ 城山 1 丁目 地区	6月19日(月)	初回。社協から座談会の趣旨を説明した。1丁目の自慢や困りごとを話し合った。
	7月24日(月)	多世代や外国人を含む住民みんながコミュニケーションできる地域になるようアイデアを出した。
	8月28日(月)	コミュニケーションのきっかけを話し合った。班の親睦会、趣味特技のクラブを作る案が出た。
⑩ 城山 2 丁目 地区	6月14日(水)	初回。社協から座談会の趣旨を説明した。地区の自慢や困りごとについて話しあった。
	9月13日(水)	自治会行事の運営について話し合い、次回は若い住民の意見を聞けるようなお茶会をすることになった

	11月8日(水)	2丁目の若者の意見を聞く目的でお茶会を開催。3名の若者が参加され“暮らし”について意見を聞き取った。
	2月7日(水)	前回ゲストとして参加した住民が座談会に加わった。お茶会で出た意見を振り返り、全年代が安心して地域で顔を合わせられる方法として自治会長からあるアイデアが出され、企画を話した。
⑪ 城山3丁目地区	6月28日(水)	初回。社協から座談会の趣旨を説明した。花植えなどの行事でのシニアクラブと子ども会が交流できているという3丁目の良さを話し合った
	9月27日(水)	100歳体操に出て来れない人に対してどう働きかけるか。免許返納後の生活の不安も出された。
	11月22日(水)	誰でも来れるカフェや県人会の企画を話し合うことになった。
	2月15日(木)	カフェをする目的について話し合った。自由にそれぞれの気づきやアイデアがたくさん出され、継続して話し合うことになった。

※筑紫地区. 笹尾西1丁目は休止中。

15. 生活支援コーディネーター

1. 自治会圏域の支えあい

(1) 地域福祉座談会

座談会(11カ所)に参加してファシリテートした。また、小さな親切運動に推薦した(3カ所)。

(2) 既存の地域活動団体等の発掘

北友会[長深]他

(3) 新規開設した活動(すべて、自治会の協力を得ている)

① カフェ活動(顔の見える地域づくり) 9カ所

筑紫パープル5(ファイブ)、ひなたぼっこ、岩ちゃんち、カフェとっとり、ろくちゃんカフェ、カフェにしよん大木カフェ、穴太シニアお茶会、中上地区CA活動

※“カフェとっとり”はご希望の方を送迎した。

② 生活支援活動 2カ所

中上地区粗大ゴミ運搬支援、大木地区粗大ゴミ運搬支援

(4) 継続支援した活動(すべて、自治会の協力を得ている)

① カフェ活動 3カ所

瀬古泉カフェ、ごきげんよう、お茶しませんか

※“お茶しませんか”はご希望の方を訪問した。

② 生活支援活動 1カ所

中上地区外出サポート活動

(5) 助成金や民間補助金の説明・申請の支援 10団体へ

(6) コーヒー単価表など活動を企画・実施しやすくするための情報提供

(5) 食品衛生上の活動の手引きの作成・説明 4団体へ

(6) 情報発信

	<p>① ホームページに生活支援体制整備事業のボタンをつくった。 生活支援Co. サイトの閲覧数 221,894件</p> <p>② 町内の『支えあい活動一覧』『月別活動予定表』を作成し、発信した。</p> <p>③ 居宅介護支援事業所、訪問介護事業所等で地域活動を説明した。</p> <p>(7) 活動発表</p> <p>① 福祉のつどい、県社協主催セミナーで発表した。 *中上地区粗大ゴミ運搬支援活動 * 笹尾東4丁目地区 “お茶しませんか” *鳥取地区 “カフェとっとり” * 笹尾東4丁目地区 “ひなたぼっこ”</p> <p>(8) 活動団体のネットワーク</p> <p>① 運営者どうし、これからカフェを考えている方どうし交流された。</p> <p>② カフェ活動の運営者どうしが自由に語れる場を提供した。</p> <p>(9) 地域ケア会議に出席し要支援認定者の地域参加を促進した。</p> <p>2. 町内全域の支えあい</p> <p>① カフェでパンを販売できないか、(社福)いずみの担当者と懇談した。</p> <p>② 生活協同組合コープみえ桑名センターと意見交換をした</p> <p>3. その他</p> <p>① 桑名市など6つの市の生活支援Co. に業務の進め方について情報提供した。</p> <p>② 地区別の人口構成、高齢化率等アセスメント票を整備。</p> <p>③ 度会町社協で中上地区自治会長が行う外出サポート活動に関する講演に同行、生活支援Co. から地域活動に関する話をした(11/17)</p>
16. 担い手養成	<p>「まちなかサロン・まちなかカフェ」を開催している大阪府阪南市に行き、カフェの運営状況と移動販売車の見学と伴に意見交換した。</p> <p>この先進的な活動を地域福祉推進協議会で各座談会のみなさんに伝達した。</p> <p>研修日時 6月8日(木) 午後1時から午後3時</p> <p>研修場所 阪南市社会福祉協議会 職員5名</p> <p>伝達日 平成29年6月20日(火) 地域福祉座談会代表等15人へ</p>
17. 活動支援	<p>地域福祉の向上に資する活動や団体に助成した。</p> <p>(1) 地域福祉活動助成事業</p> <p>地域福祉座談会を通じて生まれた活動に要する経費の一部を助成した。</p> <p>① 城山3丁目地区地域福祉座談会 49,000円 子どもとのグランドゴルフ大会に使用する道具</p> <p>② 城山2丁目地区地域福祉座談会 50,000円 子どもとのグランドゴルフ大会に使用する道具</p> <p>③ 城山1丁目地区地域福祉座談会 50,000円 子どもとのグランドゴルフ大会に使用する道具</p> <p>④ 大木地区地域福祉委員会 50,000円 粗大ゴミ運搬活動・カフェ活動の備品消耗品</p> <p>⑤ カフェにしよん(笹尾西4丁目) 50,000円 カフェ活動の備品消耗品</p> <p>⑥ 中上地区見守り会議 100,000円 外出サポート活動の備品消耗品. CA活動の備品</p> <p>⑦ 鳥取自治会 100,000円</p>

	<p>カフェ活動で使用する備品</p> <p>(2) 小地域福祉活動助成事業 22自治会 465,000円</p> <p>(3) 環境の整備</p> <p>① 事務作業応援コーナー 地域福祉活動に取り組む個人、団体が自由に利用できる事務作業コーナーを設置し利用を促進した。 * 複合機の利用実績/白黒1,050枚 カラー163枚</p> <p>② ボランティア保険 安心して活動するため、ボランティア活動保険の加入を勧めた。 * ボランティア活動保険加入実績/974件</p>
18. 地域福祉推進協議会	<p>各地域福祉座談会、各団体・機関が実施状況を発表し、共有した。また、四日市市曾井町“暮らしの応援隊”の実践事例を学んだ。</p> <p>① 日 時 平成29年6月20日(火) 会 場 ふれあいセンター 会議室1 テーマ 阪南市の「まちなかサロン・移動販売車」の事例の伝達 各座談会の活動紹介 参加者 地域福祉座談会代表等15人 (地域福祉座談会代表12名、民生委員1名、シニアクラブ1名、シルバー人材センター1名)</p> <p>② 日 時 11月7日(火) 予定 会 場 ふれあいセンター 会議室1 テーマ 曾井町の支えあい文化～暮らしの応援隊～ 講師：暮らしの応援隊 代表 坂倉靖夫氏 参加者 地域福祉座談会代表等16人 (地域福祉座談会代表13名、民生委員1名、シニアクラブ1名、シルバー人材センター1名)</p>
19. 社協行政連絡調整会議/地域福祉施策検討会議	<p>① 社協行政連絡調整会議 7月27日(木) 2月14日(水) 社協と役場福祉部(4課)の実務者が業務の現況、今後について協議した。</p> <p>② 地域福祉施策検討会議開催日 9月21日(木) 社協事務局長、福祉部部長及び4課の課長が町全体の地域福祉の方針を協議した。</p>
20. 生活支援型配食サービス事業	<p>在宅のひとり暮らし高齢者や要介護高齢者等に昼食を配達するとともに安否確認し、留守の場合は改めて自宅を訪問して状況を確認した。</p> <p>(1) 配食 * 委託先/社会福祉法人いずみ * 月曜日から金曜日の中で希望する日 * 個人負担金 300円(減額対象者2名 150円) * 利用食数3,616食 利用登録者26名 利用実人数1日平均20人</p> <p>(2) 安否確認 * 配達時に留守で安否確認した件数 20件 * 配達時、後に体調不良の対応をした件数 2件</p>

<p>21. ふれあい型配食サービス事業</p>	<p>* 家族（ケアマネジャー）・民生委員に連絡した件数 5件</p> <p>ひとり暮らし高齢者を中心とした対象者に、ふれあいを目的に昼食を配達した。</p> <p>(1) 配食</p> <p>* 委託先／わくわくボランティア 食生活改善推進協議会 ※一部業者委託</p> <p>* 第2・4火曜日と第1～4金曜日の希望する日</p> <p>* 個人負担金 300円</p> <p>* 利用食数 1,584食 利用登録者 35名 利用実人数平均 29人</p> <p>(2) 安否確認</p> <p>* 配達時に留守で安否確認した件数 29件</p> <p>* 家族（ケアマネジャー）・民生委員に連絡した件数 8件</p> <p>(3) 地域包括支援センターと連携して支援した件数 1件</p> <p>認知症の進行により弁当配達日を忘れて外出し受け取れないことが続いていた利用者に対し、地域包括支援センターと訪問して受け取れるように工夫しひとり暮らしを継続できるように支援した。</p> <p>(4) 食中毒講習会</p> <p>日 時 平成29年6月9日(金)</p> <p>内 容 食品衛生講習</p> <p>講 師 桑名保健所</p> <p>参加者 21名</p>
<p>22. シニアカレッジ事業</p>	<p>シニアカレッジを受講することによって地域福祉に関心を持ってもらい、卒業後、地域福祉活動のリーダーになっていただけるように取り組んだ。卒業生の97%の方がシニアカレッジを機会に地域に関心をもつようになった。</p> <p>開催日 6月～3月までの月1回</p> <p>会 場 ふれあいセンター等</p> <p>修了生 35名(内97%が地域福祉に関心をもった)</p> <p>内 容 東員町の現状について(東員町長)、地域デビューについて(美し国おこし三重)、地域見守り活動の実際について(栗東市社協)、地域活動について、東員町の高齢化の現状について(東員町役場)</p>
<p>23. 地域ボランティア制度</p>	<p>地域ボランティア制度への登録をきっかけに地域福祉に目を向けてもらえるよう、登録説明会では地域福祉に関して意見交換する時間を設けた。</p> <p>① 登録状況／登録者86名・活動先23カ所</p> <p>活動先：介護付有料老人ホームあおい、ナジックホームもも、特別養護老人ホームバードガーデン、東員町ケアセンターふれあい ショートステイグループホームとういん、笹尾ケアセンターみんなの家、就労継続支援A型事業所ツグマホームとういん 各保・幼稚園6園、各小学校8校、各中学校2校、教育委員会、社会福祉協議会</p> <p>② ポイント交換率 69.7%</p> <p>③ 広報</p> <p>民生定例会、東4お茶しませんか、西3三寿会、西3三寿会で説明 チラシの新聞折込・戸別配布(5/11) ホームページ(ブログ掲載等)、広報とういんで広報した。</p> <p>④ 地域ボランティア制度について行政との打ち合わせ(19回)</p>

	<p>⑤ 登録者説明会の開催 毎月1回及び希望に合わせて開催した(17回/年)</p> <p>⑤ 登録者と活動先とのマッチング/10回</p> <p>⑥ 登録者交流会の開催 ボランティア落語家講演会&寄席(8/31.公開講座) ヨガ体験(県立看護大学出前講座)・活動先からのビデオメッセージ(3/1) ※ミユ7月号,中日新聞(29.8.25朝刊) 桑員ホームニュース(30.3.10発行)掲載</p> <p>⑦ 登録者対象の講座開催 傾聴講座(2/年) 認知症サポーター養成講座(2/年) PC講座(10回/年)</p>
24. 家族介護継続支援事業/家族介護教室 [リフレッシュ事業]	<p>リフレッシュルームや家族介護教室を催し、介護者の負担を軽減する機会を提供した。実施の際には必ず交流会を催し日頃の悩みを話し合った。</p> <p>* ボディマッサージ、オムツ教室、大台町の在宅介護者との交流会など6回</p> <p>* 延べ参加者数 14名</p>
25. 心配ごと相談事業/無料弁護士相談	<p>弁護士一般相談員(有資格者・学識経験者・元民生委員)が相談に応じた。法律的な相談に対しては、弁護士が助言したり専門機関を紹介した。</p> <p>* 毎月5日(土・日・祝の場合は翌日)及び、第3日曜日</p> <p>心配ごと相談及び弁護士相談開催回数 24回</p> <p>相談件数 74件</p>
26. 当事者団体等の育成支援	<p>① 東員障がい児者友の会 各種事業の開催支援、広報活動の支援等</p> <p>② 東員町障がい児(者)親の会 助成金の交付</p> <p>③ 東員町遺族会 県戦没者追悼式の参加支援、町戦没者追悼式の開催協力、行政との連絡調整等</p> <p>④ いなべ地区視覚障がい者協会、いなべ市聴覚障がい者協会 助成金の交付</p> <p>⑤ いなべ市聴覚障がい者福祉協会東員支部 団体運営にかかる支援</p> <p>⑥ 東員町福祉事業所連絡協議会 団体運営・企画実施にかかる支援</p> <p>⑦ 東員町シニアクラブ連合会 理事会・企画委員会への参加、各種事業の開催・広報活動の支援</p> <p>⑧ 東員町母子寡婦福祉会 広報活動の支援</p>
27. 子育て支援事業	<p>子育て中の親、子ども同士が気軽に集える居場所を作り、交流した。また、地域でイベントを開催することで、地域内の交流が充実した。</p> <p>委託先/ 子育て支援ネット</p> <p>(1)子育て応援ルームの運営</p> <p>開催日 月・水/週 ・ 延べ93日</p> <p>会場 ふれあいセンター2階</p> <p>参加者 延1259人</p>

	<p>(2)イベントの開催 開催日 7・10・12・1・3月 会場 ふれあいセンター2階 内容 七夕まつり、ハロウィン、クリスマス会 ぶりんとコラボ「人形劇」、防災講座</p> <p>(3)子育て支援「ほっと」 開催日と会場 穴太多目的研修センター(6/16) 中上構造改善センター(9/15) 鳥取集落センター(11/17) 城山集会所(2/16) 内容 他の親子との交流、お茶会、おもちゃ遊び、歌遊び、リズム遊び等</p> <p>(4)子育て支援ネット会議への参加 開催 毎月1回(8月は休み)</p>
<p>28. 災害ボランティアセンター</p>	<p>平成23年に作成したマニュアルの見直しを通して、設置から運営についてより具体的に意見を出し合い、設置の判断からボランティアの募集までの過程を協議した。</p> <p>① 企画会議の開催(隔月奇数月) 参加者：民生委員、障がい当事者、福祉事業関係者、行政、防災活動者</p> <p>② 災害ボランティアセンターを開設するためのマニュアルの見直し及びボランティア募集方法を検討した。</p> <p>③ 平成29年台風第21号による浸水災害(伊勢市)のボランティア支援(10/27) ボランティア支援の実際を運営委員会で報告し意見交換した。</p> <p>④ 北勢地区災害ボランティアセンター情報共有会議への参加 マニュアルや訓練の情報交換、図上訓練(8/16) 災害ボランティアセンター設置運営訓練(いなべ市・1/27)</p>
<p>29. 町内福祉事業所連絡会</p>	<p>町内福祉事業所間の情報交換と福祉職員の資質向上、地域福祉課題解決のため、分野を超えた福祉専門機関のネットワーク作りに取り組んだ。</p> <p>(1)運営 ① 役員会(4/26、11/18、2/7)の開催 ② 総会(5/17)の開催</p> <p>(2)研修会 ① 第1回研修会 日時：平成29年5月17日(水) 18:00～20:00 内容：「こころ元気に仕事をするには」 講師：こころ元気研究所 所長 鎌田 敏氏 参加者62名</p> <p>② 第2回研修会 日時：平成29年10月11日(水) 18:00～20:00 内容：「テーブルレクリエーション」(概論・実技・交流会) 講師：いなべ市社会福祉協議会地域福祉課長 稲葉淑乃氏 参加者60名</p> <p>③ 第3回研修会 日時：平成30年2月21日(水) 18:15～19:45</p>

	内容：福祉事業所管理者交流会 参加者31名
30. 障がい児者の地域生活に関する学習	<p>① 居宅介護支援事業所の定例会に、障がい児者の計画相談員が出席し、障がい者の事例検討会を行った。</p> <p>② 福祉事業所管理者交流会の場で、介護保険事業所と障がい福祉事業所の管理者が意見交換した。</p>
31. 共同募金委員会の活動支援	<p>共同募金運動の広報と東員町共同募金委員会の運営を事務局として支援した</p> <p>(1)広報</p> <p>① 『ふくしのわ』（10/6発行）ホームページで運動情報を発信</p> <p>② 啓発ポスター、チラシを町内各所へ配架</p> <p>③ 共同募金の趣旨や使途に特化した町独自のPRチラシを作成・各戸配布</p> <p>(2)運営</p> <p>① 運営委員会（6/13. 9/26. 3/23）の開催</p> <p>② 三重県共同募金会主催の会議に参加 2回</p> <p>(3)共同募金運動への協力依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> * 東員町自治会長会 * 東員町商工会理事会、東員町シニアクラブ連合会理事会 * 東員町校長会、東員町園長会 * 商工会 * 町内の商店法人企業

利用支援分野

経済的困窮のみならず社会的孤立に対応するため、経済的にお困りの方、加齢や障がいによって日常生活に不安のある方に資金の貸付や家計の相談、金銭管理の代行を支援しました。暮らしのお困りの方の相談は増えつつありますが、生活の相談はひとつのサービス利用で解決するものではありません。生活そのものを多方面から支える必要性を感じる1年でした。

32. 福祉有償運送事業	車椅子対応の依頼があり、車椅子のまま乗り込める軽車両で支援した。 利用回数 41回
33. 介護タクシー助成事業	要支援者に介護タクシー券(年間2,000円分)を発行し、在宅高齢者の外出を促した。 * 2,000円助成/年 * 18名申請・交付 (要支援認定者のおおよそ15%) * 協力事業所 7事業所
34. 日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)	日常金銭管理を生活支援員と共に行った。金銭管理を通して日常的に本人と関わり生活上の不安の解消に努めた。中には相談支援員や行政職員と協議して実施することもあった。 * 利用者 6名 * 生活支援員 3名(男性2名 女性1名) * 相談件数 4件 * 支援回数 のべ143回(支援員112回 推進員31回) (日常生活の出金、公共料金の支払い、諸手当の受け取りの手続き) 内、臨時支援13回(浪費、病院の診察等の緊急なお金の出金)
35. 日常的金銭管理サービス事業	判断能力のある概ね65歳以上の高齢者や20歳以上の身体障がい者等を対象に金融機関の手続きを代行した。 * 日常的金銭管理サービス利用者 1名 * 相談件数 2件
36. 公的資金貸付事業. 生活困窮者自立相談支援	(1)生活福祉資金貸付等 生活福祉資金貸付や生活費などの相談に対応し、申請、償還指導等を行った。(以下は3月末時点) ① 利用相談 97件 ② 調査委員会 0 ③ 貸付決定 1件 ④ 完済 2件 ⑤ 滞納者面談 0件 ⑥ 貸付状況 福祉費 1件 87,002円 貸付額 教育支援資金 6件 3,632,027円 緊急小口資金 5件 743,042円 総合支援資金 1件 1,069,179円 (2)生活困窮者自立支援事業 三重県社会福祉協議会の三重県生活相談支援センター相談員や東員町役場地域福祉課の困窮支援担当者と連携し、面談や定期的な状況確認、利用可能な制度の提案等の支援をした。 具体的には、困窮している相談者の生活状況や訴えを聞き取り、個々に

	<p>応じた家計、就労、医療機関の受診、進学、年金等各種給付の受給手続き、法律相談等の情報提供や窓口への引継ぎ等の支援を行った。</p> <p>① 生活相談・支援 18 人(のべ51回)</p> <p>② 家計相談 0 人(0回)</p> <p>③ 緊急食糧支援 7 人(のべ10回)</p>
<p>37. 車いす・スロープ貸し出し事業</p>	<p>短期間あるいは緊急に車いす等が必要な方に無料で貸し出した。また、そこで得た情報を民生委員に提供し、地域の福祉支援に役立てた。</p> <p>貸出件数 車いす130件 スロープ4件</p> <p>貸出理由 通院30件 買い物17件 一時退院9件 日帰りの娯楽や行楽26件 旅行23件 通学5件 その他24件(屋内移動など)</p>

介護保険サービス、障がい者福祉サービス分野

サービスの提供にあたっては、ニーズに応じた対応ができるよう、職員体制を整え、内部研修の実施・外部研修への参加により、職員の資質向上を図った。

訪問介護と通所介護は利用者数の変動が大きかったが、通所介護では年度末にかけて利用者数が伸びた。

38. 訪問介護	<p>① 毎日型で訪問する介護度の高い利用者の死亡・入所が続き、9月以降の訪問件数が減少した。新規の依頼があっても、週2回程度の依頼であり、利用者の増加にはつながらなかった。</p> <p>② 請求業務においては、導入した新システムの操作にも慣れてきた。</p> <p>③ 月に1度の、登録ヘルパーミーティングにおいては、計画的に研修を実施し、職員の資質の向上に努めた。</p> <p>3月末現在 6,164名</p>
39. 障がい児者訪問介護	<p>① 新規依頼は、年間で2件ほどあるが、利用中止になることはなく、継続的に利用頂いた。</p> <p>② 月に1度の、登録ヘルパーミーティングにおいては、計画的に研修を実施し、職員の資質の向上に努めた。</p> <p>3月末現在 1,758名</p>
40. 通所介護	<p>① 4月から一般浴提供場所の変更にて、お風呂場までの動線がコンパクトになり誘導に係る職員の削減できた。</p> <p>② 全身運動を行うことができるニューステップと段差運動の階段昇降器を導入し、運動スペースのレイアウトを変更した。</p> <p>④ 送迎業務については、6月より直接雇用の職員に担ってもらい、人件費の削減ができた。</p> <p>⑤ 10月より新システムを導入し、端末タブレットの活用を開始した。まだ、操作に不慣れなところもあるが、導入目的である効率化については、一部達成できた。</p> <p>⑥ 職員の資質向上のために、内部研修：8回実施 外部研修：8回出席 運営会議4回実施（会長・局長・係長出席）</p> <p>⑦ 新規依頼に対して、入所や死亡の件数が多く大きく変動したが、年度末にかけて利用者数は伸びた。</p> <p>⑧ 11月から個別機能訓練加算Ⅰの取得をした。取得にあたっては、適切なメニューが提供できるように、部署内でのミーティングを重ねた。</p> <p>3月末現在8,982名</p>
41. 日中一時支援	<p>生活介護への移行については、通常の介護保険の指定を受けている事業所が、障がい福祉サービスの指定を受けれるとの情報を得、最新情報に注視した。</p> <p>利用者延べ人数 235名 3月末登録者数 5名</p>
42. 居宅介護支援	<p>① ケアマネ間で、お互いのケアプラン点検を行ったことで、他のケアマネのケアプラン作成プロセス・介護保険外の社会資源の位置づけ等を共有することができた。</p> <p>② 導入した新システムの操作にも慣れ、現在もデータ移行を行っている。</p> <p>③ 利用者の目標を引きだせるような関わりについては、居宅の定例会を通</p>

	<p>して、ケアマネ1人ひとりの技術の向上に努めた。また、社会資源については、生活支援コーディネーターから地域の情報を得、担当する利用者に案内をした。</p> <p>④ 年度末には新規の依頼が集中した。 3月末現在 1,981名</p>
43. 障がい者・障がい児計画相談	<p>① 新規の計画作成数は昨年比べて減少しているが、計画作成でサービス利用につながらない新規ケースやサービス利用の終了に伴い相談対応のみや介護保険サービスへの移行調整などの基幹型相談対応ケースが徐々に増えた。</p> <p>② 定期的な会議や研修の機会を通して、関係機関との情報の共有や連携の機会を持てるようになった。</p> <p>・障がい者 106件（新規0件、更新29件、変更0件、モニタリング77件） ・障がい児 86件（新規3件、更新31件、変更1件、モニタリング51件）</p>
44. 通所型サービスA	<p>① サービスの提供にあたっては、地域包括支援センターと連携し、目標・目標達成時期を明確にして支援にあたった。</p> <p>② ボランティアの登録者数は10名 一日に3名程のボランティアが活動し、活動内容としては、玄関までの出迎え・会場準備・プログラム提供時の雰囲気作りを担ってもらった。</p> <p>③ 年度当初は月・水・金の開催であったが、利用者の減少により、年度末は水曜日だけの開催となった。 利用延べ人数 258名</p>
45. 短期集中訪問型サービスC	<p>① 事業概要に対する勉強会を2回、担当職員同士でのフィードバックを定期的実施し趣旨及び目的の把握を行った。</p> <p>② 3月末までに利用人数が2名。（ともに週1回/3ヶ月） 利用までに至らなかった相談は3件。</p> <p>③ ケアプラン及び計画書に基づいた対象者別の評価を実施。</p>
46. 地域リハビリテーション活動支援事業	<p>① 事業概要の勉強会を1回実施、7月22日（土）城山2丁目シニアクラブいきいき百歳体操普及啓発事業に出張。</p> <p>② 2月5日に城山3丁目シニアクラブへ介護予防教室出張。</p> <p>③ 派遣を希望する団体によって希望する内容が異なるので実施目的を代表者と適宜協議し確認しながら事業を進めることが出来た。</p> <p>④ 実施方法についての検討会を出張の都度2回実施</p>